



IIXIL

## ラシッサ 室内ドア プライベート仕様

## 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

**▲ 注 意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲ 注 意**

- 本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

■取付け上のおお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本製品は一般住宅用の居室用防音ドアです。カラオケボックスなどの業務用、玄関などの室外、浴室などへのご使用はおやめください。
- 本製品のみの使用では、防音効果はありません。必ず建築壁部（天井・壁・床・窓・換気空調など）は防音性能を有する構成、構造としてください。
- 防音性能を維持するため、建築壁内の防音処理およびドア枠と下地材のすき間への充てん剤（防音パテ・コーキング剤・遮音シートなど：現場手配）をご使用ください。
- 本製品は、気密性を高めているため、第3種換気に適合するすき間が確保できません。お部屋単位での換気を確保してください。
- 運搬・加工の際は、傷つかないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いいため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因となります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。
- 枠が水平・垂直でない場合、調整機構付丁番・ストライクの可動範囲を超える枠の倒れ、ゆがみ、ねじれなどが発生し、開閉不具合、および防音性能低下の原因となります。
- 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
- 戸当りは、ハンマーなどで直接たたき込まないでください。
- 必ず、プライベートドア用の埋込み沓ずりを使用してください。薄沓ずりの使用はできません。（縦枠・長さがありません）また、沓ずりなし納めにされると防音性能が低下しますのでおすすめてできません。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ（ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど）を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所
    - ・昼夜などで温度差の激しい場所
    - ・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。縦置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

●ドア本体

| 別売り部品セット |      |
|----------|------|
| ハンドルセット  | 錠セット |
|          |      |

枠セット

ケーシングセット

埋込沓すりセット

※3方枠と下枠はそれぞれ別梱包になっています。  
※ケーシングは本体・枠と別梱包になっています。

■枠セット明細

|     |          |
|-----|----------|
|     | プライベート仕様 |
| 縦 枠 | 2        |
| 上 枠 | 1        |
| 戸当り | 縦2・上1    |

■埋込沓すりセット明細

|       |          |
|-------|----------|
|       | プライベート仕様 |
| 埋込沓すり | 1        |

■ケーシングセット明細

|         |   |
|---------|---|
| 上用ケーシング | 2 |
| 縦用ケーシング | 4 |

■本体丁番ねじセット明細  
(枠に同梱、丁番にテープ留め)

|                        |    |
|------------------------|----|
| 本体取付けねじ (皿タッピンねじφ4×20) | 8本 |
|------------------------|----|

■ハンドルセット明細

|          |    |
|----------|----|
| ハンドルセット  | 1組 |
| 台座セット    | 1組 |
| ハンドル固定ねじ | 1本 |

■錠セット明細

|       |    |
|-------|----|
| 錠座セット | 1組 |
|-------|----|

■部品セット  
枠セット用

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 組立て用皿小ねじM4×50              | 4本 |
| 上枠・縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50 | 9本 |

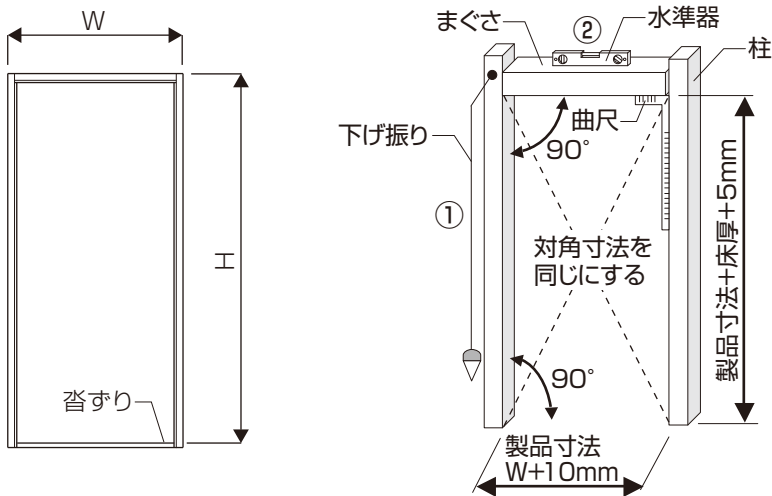
埋込沓すりセット用

|                    |    |
|--------------------|----|
| 取付け用なベタタッピンねじφ4×40 | 3本 |
|--------------------|----|

お願い.....  
※必ず、プライベートドア用埋込沓すりを使用してください。  
※薄沓すり納めはできません。床先張り(枠後付け)で納めてください。(縦枠が埋込沓すり納め寸法で設定してあります。)  
※沓すりなし納めにされると防音性能が低下します。

■開口部の作り方

●開口寸法

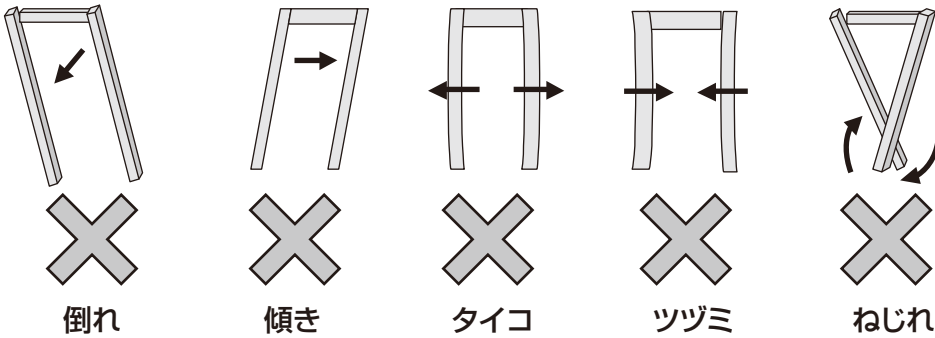


■取付け範囲

|      |                            |
|------|----------------------------|
|      | (単位:mm)                    |
| 対象壁厚 | 薄壁用 111~152<br>厚壁用 142~182 |

- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



■壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ

|    | ケーシング(足寸法) | 対応壁厚    |
|----|------------|---------|
| 薄壁 | 8          | 111~121 |
|    | 14         | 122~133 |
|    | 19         | 134~141 |
|    | 25         | 142~152 |
| 厚壁 | 8          | 142~148 |
|    | 14         | 149~160 |
|    | 19         | 161~170 |
|    | 25         | 171~182 |

## ■取付け手順

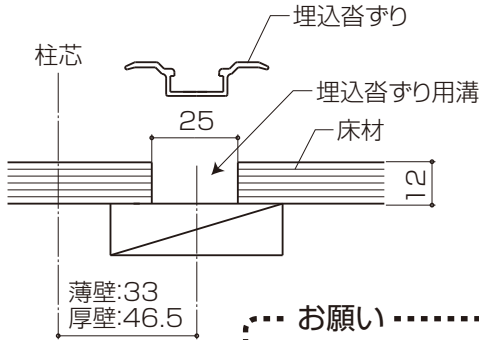
### 1 床の取付け

- ①製品寸法表から開口寸法を算出し、開口部を作製します。
- ②補強材を必ず入れ右図の位置に25mmあけて床材を張ります。  
※躯体に縦枠を仮止めして位置出しをしてください。  
躯体下部に位置出しスペーサー部品が付いています。  
床開口の位置出しが容易にできます。
- ③床を取付けます。

### ■製品寸法表

(単位:mm)

| 呼 称   | プライベート仕様     |          |
|-------|--------------|----------|
|       | H(DH)        | W(DW)    |
| 05520 | 2023(1982.5) | 648(592) |
| 0720  | 2023(1982.5) | 780(724) |

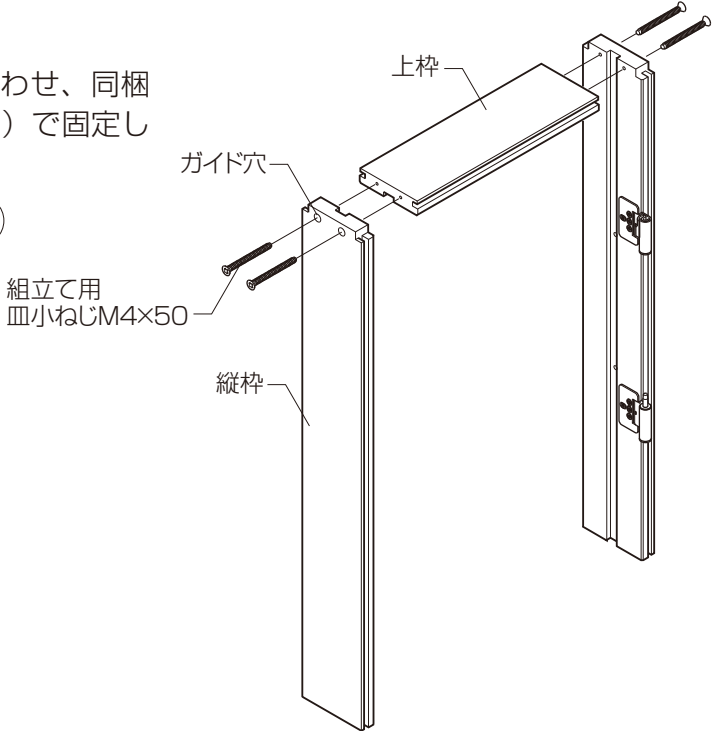


お願い  
※埋込沓すりの位置出しは、正確に行ってください。位置ずれして取付けた場合、防音性能が低下することがあります。

### 2 枠の組立て

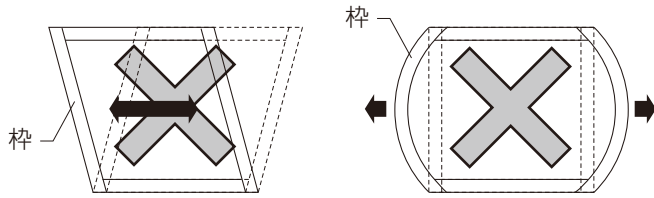
- 右図のように各部材を組合わせ、同梱のねじ（皿小ねじM4×50）で固定します。

縦枠の切断は不要です。

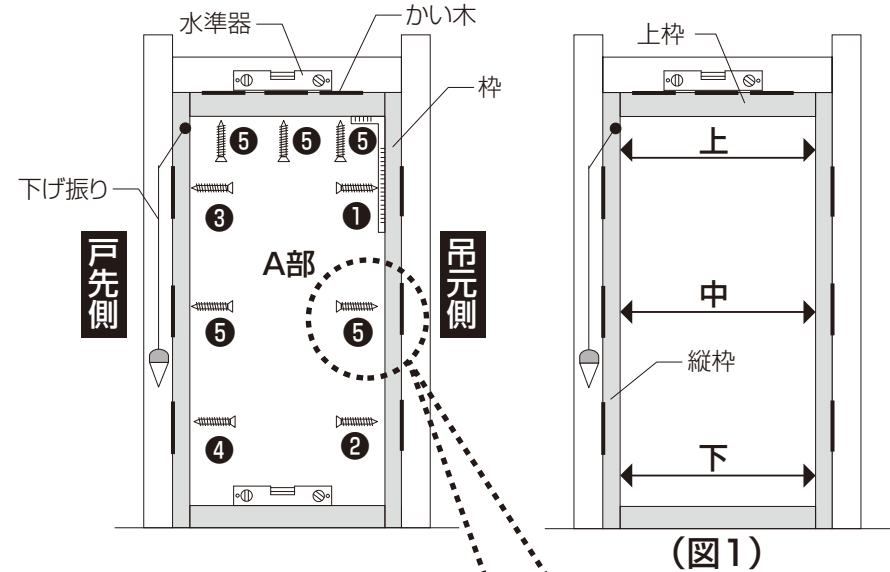


お願い  
※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。

お願い  
※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。  
※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因となります。



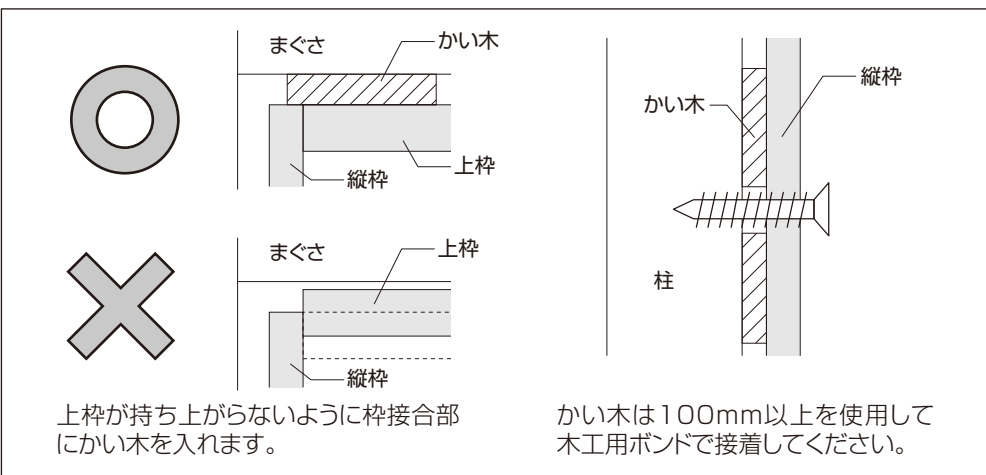
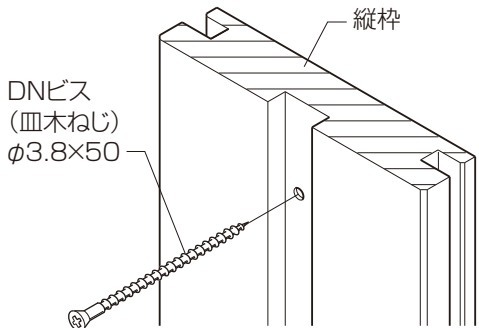
### 3 枠の取付け



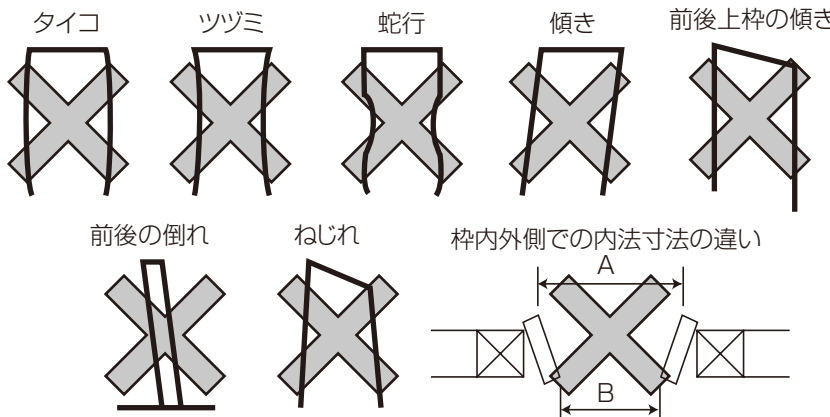
- ①枠の取付けは同梱のねじ(DNビスφ3.8×50)で取付けてください。
- ②枠を開口部にはめ込んで、下枠・上枠の水平を確認してから、縦枠(吊元側)の①を仮固定してください。
- ③下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠(吊元側)の②を仮固定してください。
- ④水準器で下枠・上枠の水平を確認してから縦枠(戸先側)の③を仮固定してください。
- ⑤下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠(戸先側)の④を仮固定してください。
- ⑥枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整し、開口寸法(W寸法)が上・中・下の個所でそろっていることを確認後、仮固定したねじおよび残りの⑤ねじで本固定してください。(図1)

※枠に水糸を張るなどして枠が曲がっていないことを必ず確認してください。  
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて取付けてください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

### ■A部詳細図

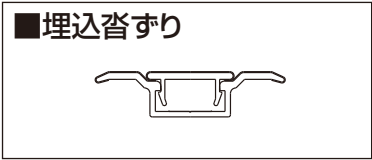


お願い  
※必ず水平・垂直の建付け確認をしてください。タイコ、ツツミ、蛇行、傾き、倒れ、ねじれなどがなければ確認してください。防音性能の低下や開閉不具合の原因となります。

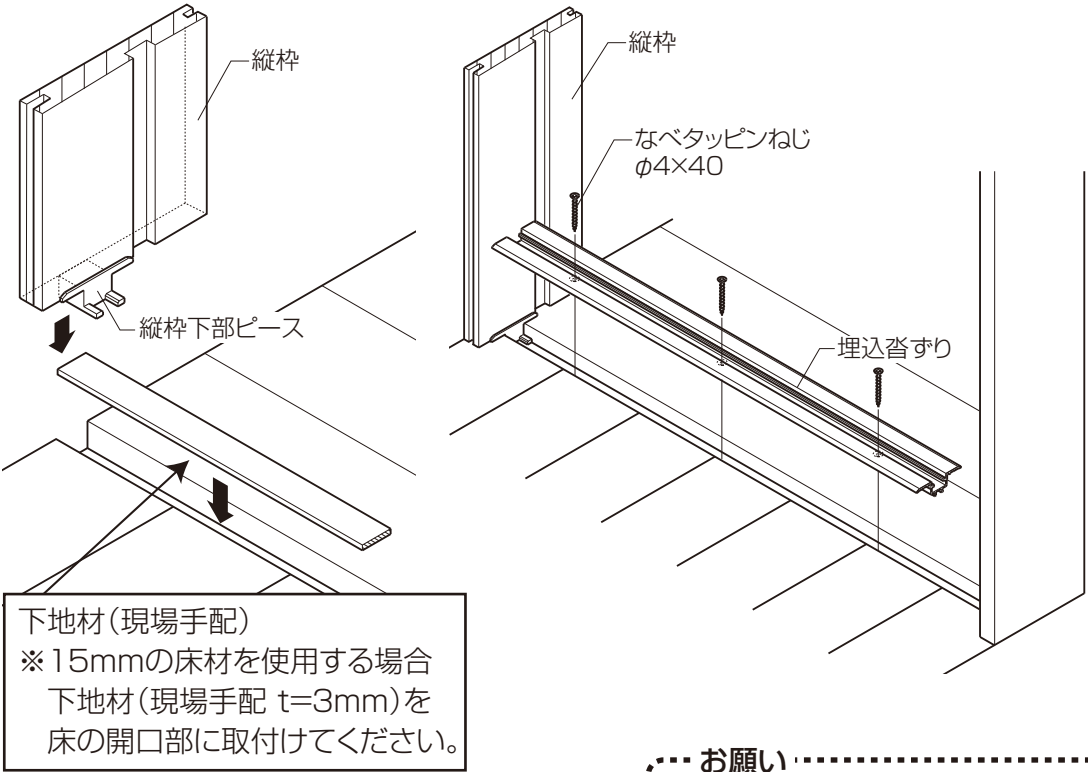
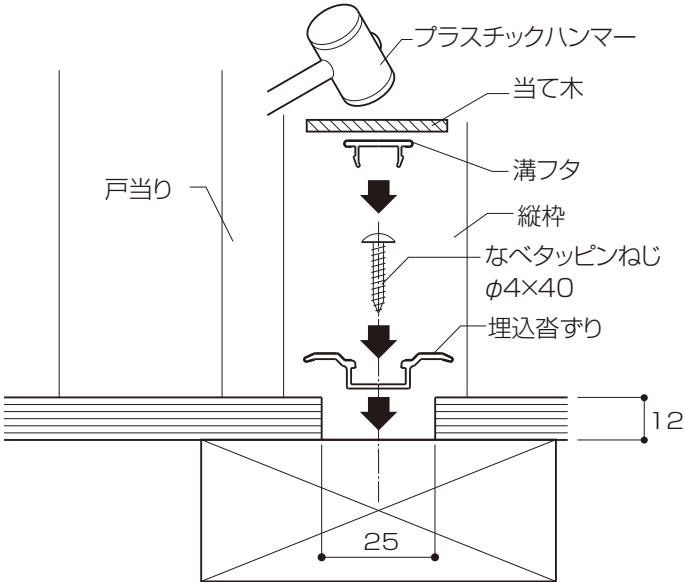


4 埋込沓ずりの取付け

- ①縦枠下部ピースの足に埋込沓ずりをしっかりとめ込んでから、ねじ(なベタッピンφ4×40)で固定してください。
- ②溝フタをはめ込みます。



●当て木をしてからプラスチックハンマーなどで溝フタが均一になるようにたたき込みます。



お願い

※埋込沓ずりを縦枠下部ピースの足にしっかりとめ込み、ねじ固定してください。ねじのゆるみ・締め忘れなどは埋込沓ずりの浮き上がりや扉開閉不具合の原因となります。

お願い

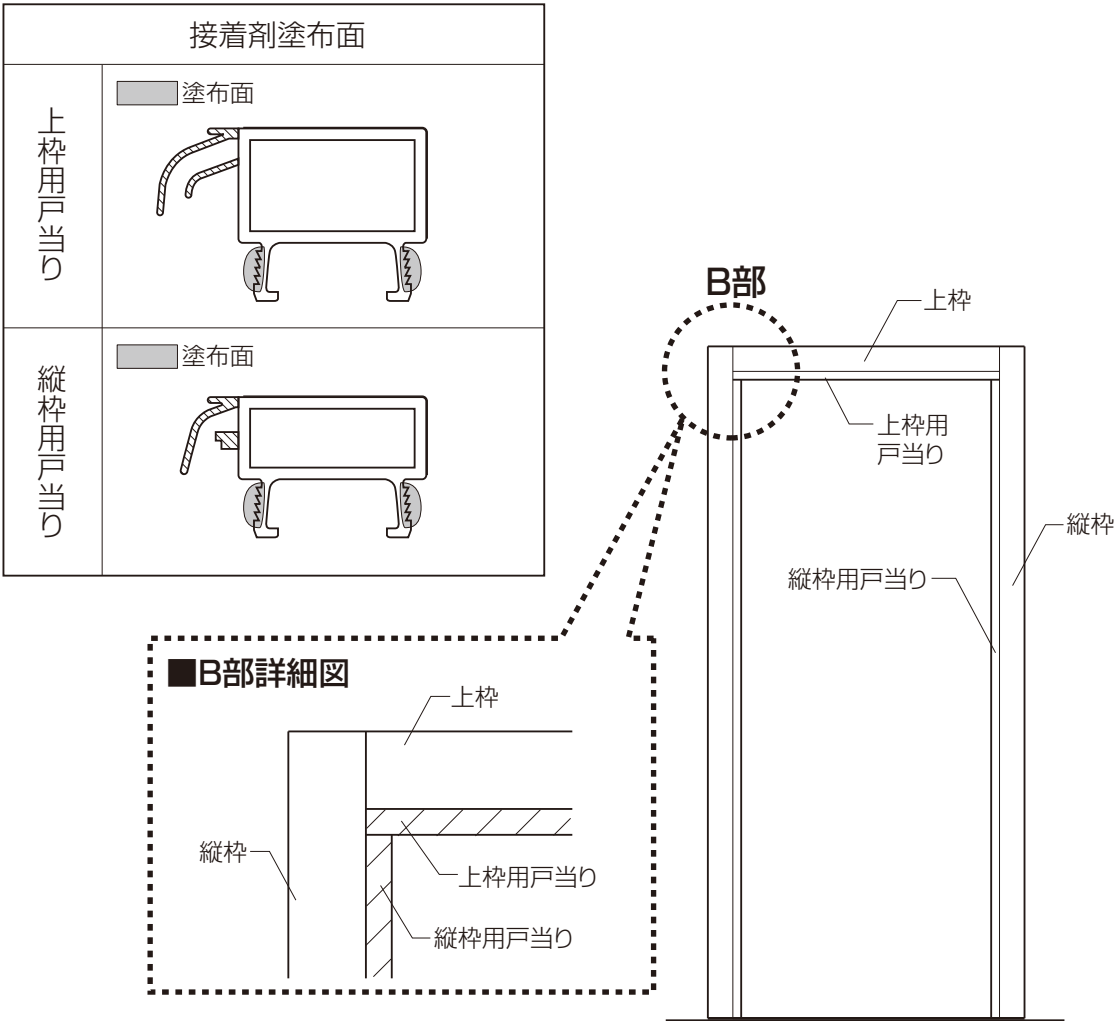
※埋込沓ずりを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込沓ずりが変形し溝フタが閉まらなかったり埋込沓ずりと床材のすき間などの原因となります。

5 戸当りの取付け

- ①現場で縦枠用戸当りの寸法を合わせて、パッキン側より切断してください。
  - ②戸当りの足の外側 (リブのある面) に接着剤 (現場手配) をつけ、固定してください (塗布面は下図参照)。接着剤 (現場手配) がはみ出した場合は必ず拭き取ってください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。

お願い

※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。

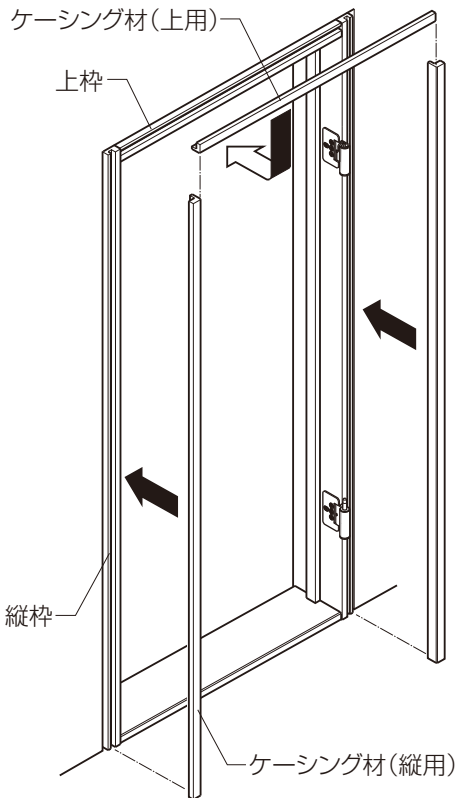


6 下地材と枠のすき間の充てん

- ①下地材と枠のすき間は、音漏れにより、防音性能に影響が出る場合がありますので、すき間への充てん材 (防音パテ、コーキング、遮音シートなど:現場手配) をご使用ください。

7 ケーシング材の取付け

- ※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。
  - ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。(上ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
  - ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
  - ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤 (現場手配) を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



8 ドア本体の取付け

①ドア本体に本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20(枠側丁番にテープ留め)で取付けます。

※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。

②枠側上丁番のレバーを止まるまで下げます。(C部)

※枠側上丁番の下部から軸が出てきます。

※レバーが動かなくなるまでしっかりと下げてください。

③本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。

④本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。

※扉側丁番の軸が枠側丁番に入ると自動でレバーが上がります。

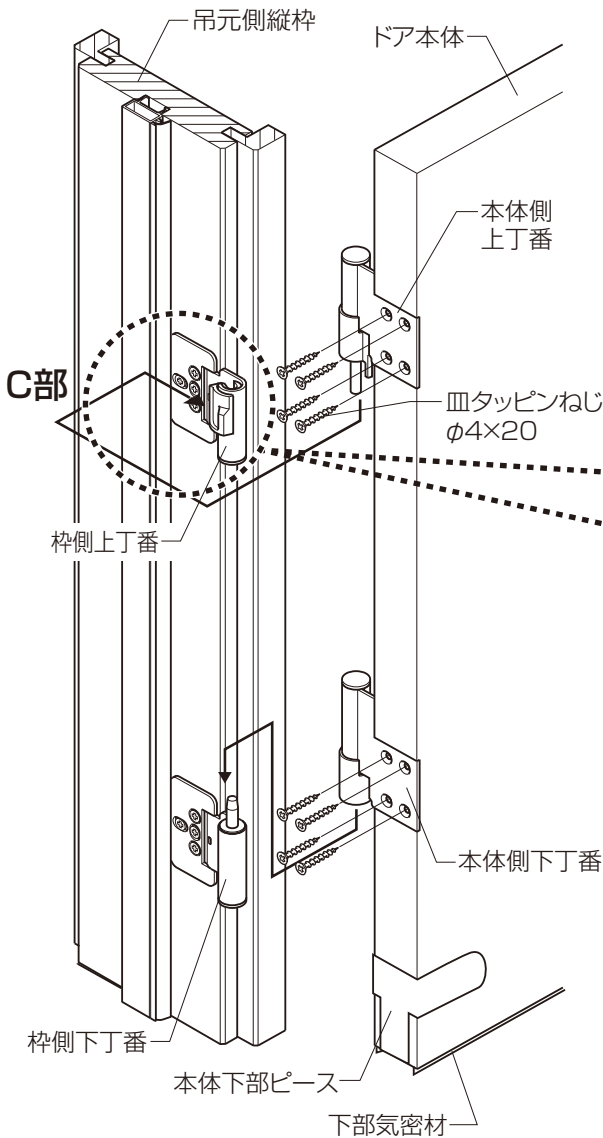
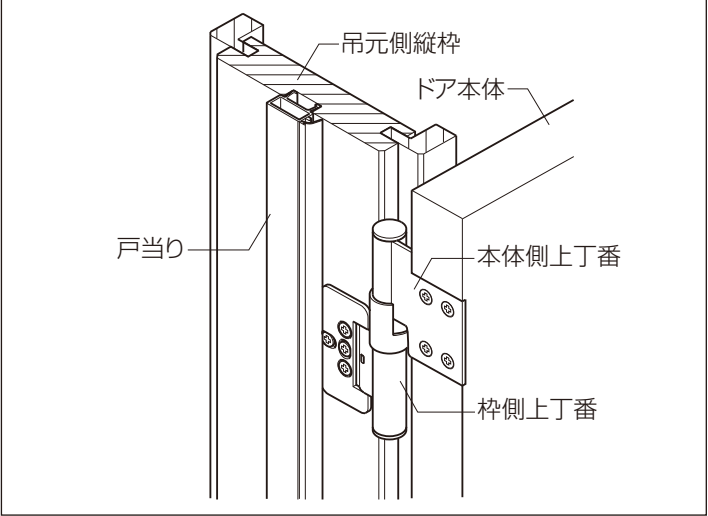
※「カチャリ」とレバーが上がり、とび出していた軸が丁番に入り込んだことを確認してください。

⑤丁番軸キャップを手で下げてください。(D図)

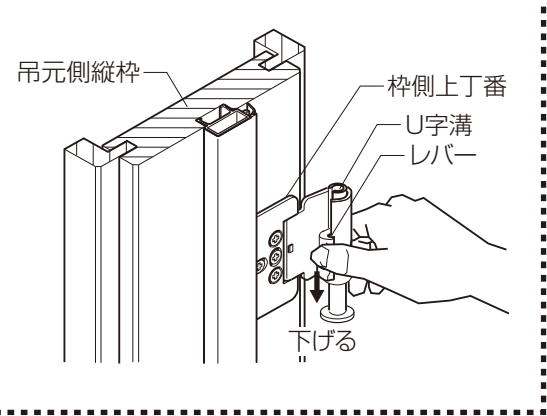
※パチンとはまるまで確実に下げてください。

⑥本体下部ピースを取外してから、扉を閉めてください。

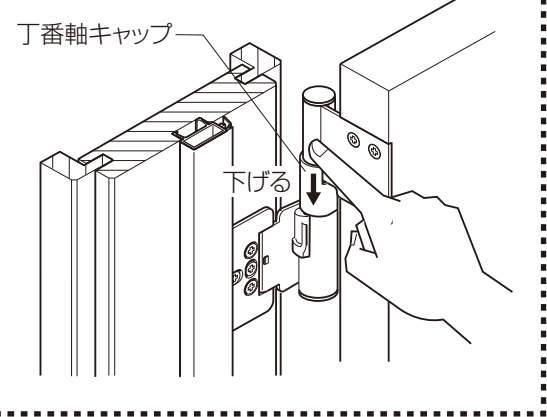
■取付け完成図



■C部詳細図



■D図

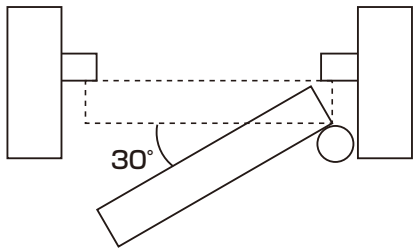


▲ 注 意

- 本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

お願い

※本製品は防音性能をあげるため、本体自体が開閉時に3mm上下します。そのため本体が0～30°の範囲においては扉が自然に閉じる場合がございますので、ご注意ください。他材との接触などにより建具破損の原因となります。

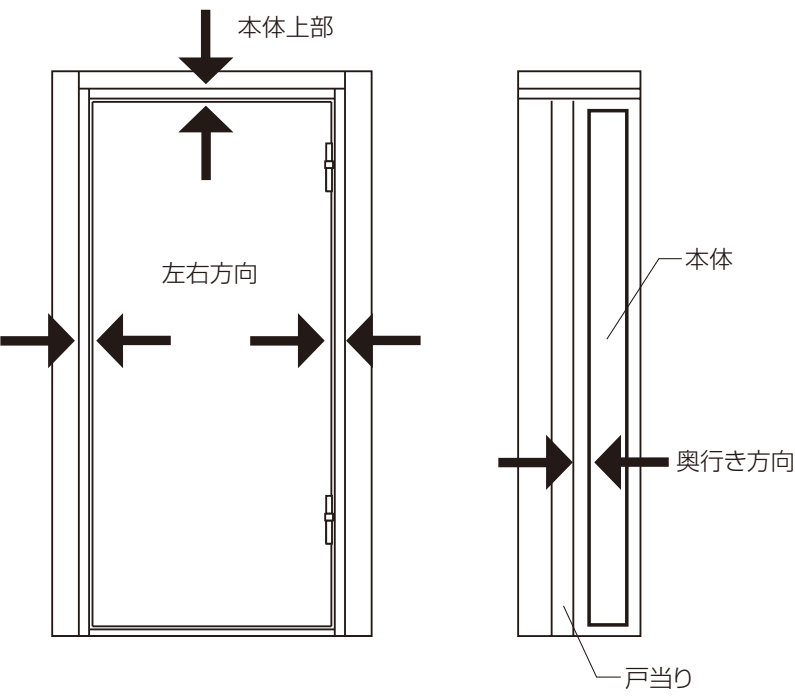


お願い

※本体を保管する際は下記の状況にあたる場所には置かないでください。  
・直射日光の当たる場所  
・昼夜などで温度差の激しい場所  
・湿気の多い場所 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。  
※長期にわたる本体の立て置き保管はせずに寝かせた状態での保管としてください。本体のソリ・ねじれなどの原因となります。一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。

■建付け調整

■標準設定位置

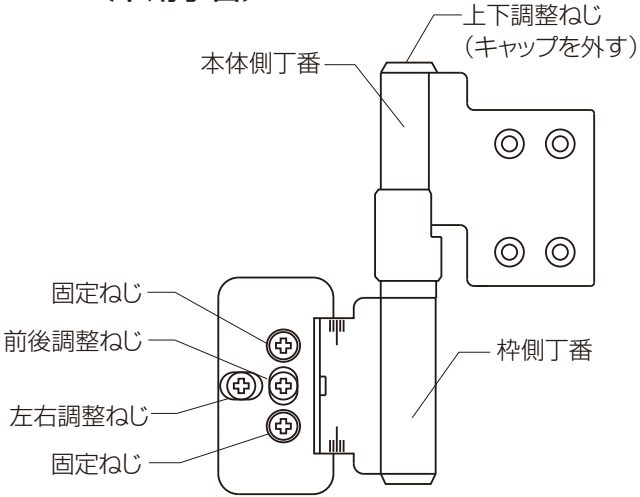


上下方向のチリは、本体上部チリを基準に調整してください。

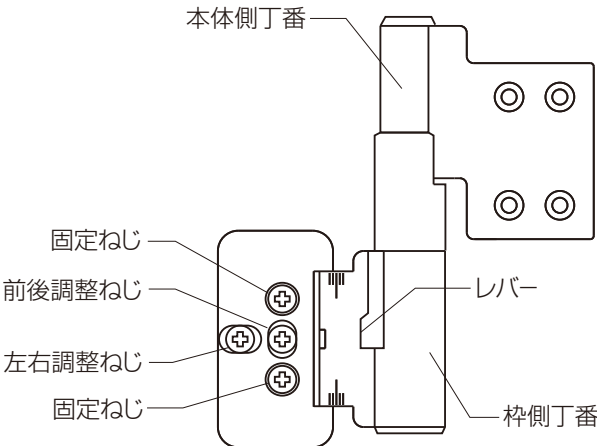
|       | 開いた時 | 閉めた時               |
|-------|------|--------------------|
| 左右方向  | —    | 4mm                |
| 本体上部  | 4mm  | 7mm                |
| 奥行き方向 | —    | 戸先側 4mm<br>吊元側 5mm |

■三次元丁番（図は、右吊り用丁番を示す。）

〔下用丁番〕



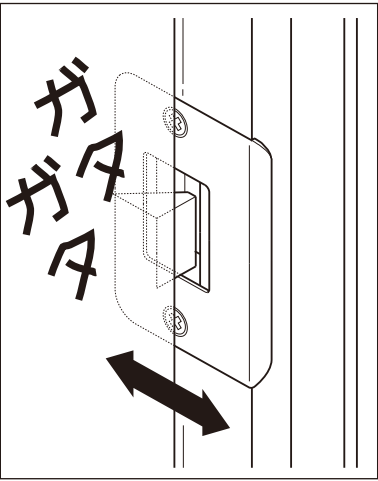
〔上用丁番〕



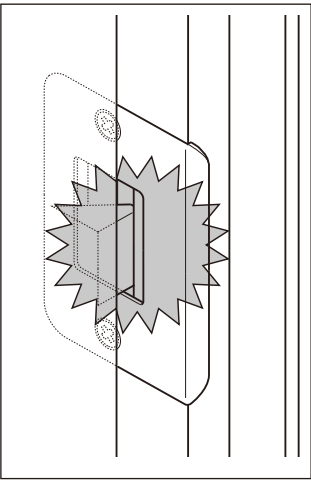
■建付け調整（ストライクによる調整）

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

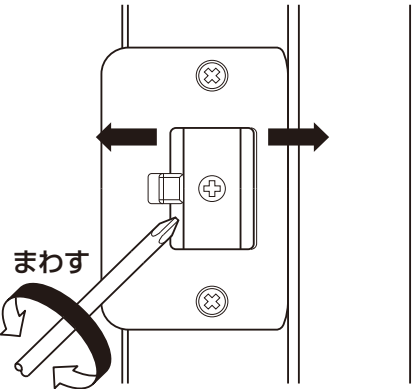
■ラッチがストライクの中でガタつく



■ラッチがかからない



ストライク調整ねじ  
可能調整範囲±3mm



■建付け調整（丁番による調整）

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。  
※電動ドライバーは、使用しないでください。  
ねじ頭が壊れるおそれがあります。

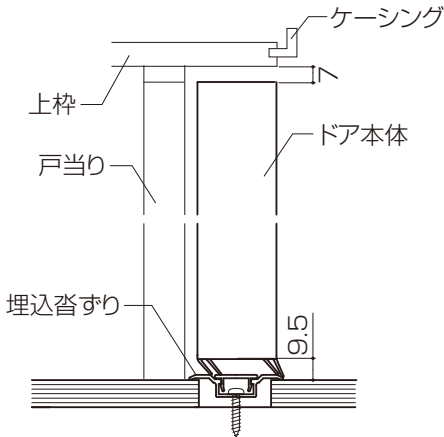


上下の調整

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上(4mm)、下(5mm)です。

標準設定位置

●本体を閉めたとき、下の納まりとなるように上下の調整をしてください。



※下部気密材の埋込沓すりへの当たり方を確認して必要なら調整してください

不具合例

- ドアの上部が枠に当たる
- 音が下部から漏れている

調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。

不具合例

- ドアの開閉が重い

調整方法

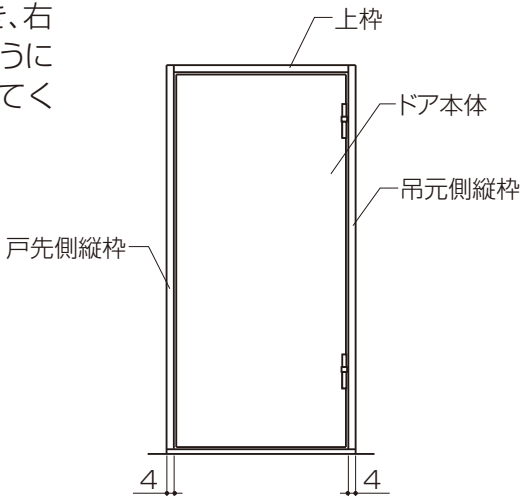
- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。

左右の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側(1.5mm)、戸先側(2.5mm)です。

標準設定位置

●本体を閉めたとき、右の納まりとなるように左右の調整をしてください



不具合例

- ドアの戸先側が枠に当たる

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。

不具合例

- ドアの戸先側のすき間が大きすぎる

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを戸先側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。

前後の調整

● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。  
● 調整幅は、前(2mm)、後(2mm)です。

標準設定位置

● 本体を閉めた時、下の納まりとなるように前後の調整をしてください

不具合例

1. 戸先側の枠が前に出ている。

調整方法

① 固定ねじをゆるめる。  
② 前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。  
③ 固定ねじを締める。

不具合例

2. 吊元側の枠が前に出ている。

調整方法

① 固定ねじをゆるめる。  
② 前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。  
③ 固定ねじを締める。

お願い

※ 枠と本体の位置が標準設定になるように調整してください。  
本体開閉の不具合や防音性能の低下の原因となります。  
※ 調整完了後、ドア本体を開閉して下記事項を点検してください。  
(異常があった場合、再度調整してください。)

- ・ 戸当りと枠の間にすき間がなく、戸当り受けに安全にはまっているか。
- ・ 枠側上丁番のレバーが上まで上がっているか。
- ・ ドア本体が枠にぶつからないか。(ドア下端の下部気密材密着は適切か)
- ・ ドア本体のラッチが、ストライクから外れないか。
- ・ ドア本体のラッチが、ストライクの中でガタつかないか。

■ 納まり図

■ プライベート仕様 ケーシングタイプ

● 製品寸法表 (単位:mm)

| 呼称    | プライベート仕様     |          |
|-------|--------------|----------|
|       | H(DH)        | W(DW)    |
| 05520 | 2023(1982.5) | 648(592) |
| 0720  | 2023(1982.5) | 780(724) |

● 縦断面図

※ 枠の見込み寸法が変わっても、沓すりの位置は縦枠の戸先側より共通の位置となります。

● 横断面図

| W呼称(枠外寸法) | A寸法 | B寸法 |
|-----------|-----|-----|
| W055(648) | 525 | 580 |
| W07(780)  | 657 | 712 |